



特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第 26 号 2016.7.11

第 2 回「アース王子まつり」開催される！

6 月 19 日（日）第 2 回アース王子まつりが開催されました。6 月の環境月間を県民にお知らせする、会員ならびに県内で環境保全活動などを行う団体との交流を深める、次代を担う子どもたちが喜び、環境に関心を持ってもらうなどを目的に昨年から環境パートナーシップいわてでは通常総会に合わせ当法人の環境キャラクターであるアース王子を主人公に「アース王子まつり」を開催しています。アイーナ 4F の県民プラザ、アイーナスタジオを会場に各種のイベントが開かれました。この日のメインイベントは、次世代電気自動車 PIUS の組立体験です。対象を未就学児童とし「君達の手で地球に優しい電気自動車を作ろう」が行われました。PIUS は一関のベンチャー企業・株式会社モディと一関高専が共同開発した環境教育用次世代電

気自動車組立キットです。1 人乗りで公道も走行可能です。これまで県内の高校、中学校などで地球環境と車のかかわりをテーマに多くの授業を行ってきました。今回は未就学児童（幼稚園児、保育園児）が組み立てを行う岩手県内では初の試みです。当日会場に設置されたのは PIUS3 台、1 台を 6 人の未就学児童が全工程約 1 時間をかけ組立を行いました。地球温暖化について紙芝居（県立大学の学生が作成）で学習した後、つなぎの作業服に着替えたかわいいちびっこエンジニアたちは、大学生（岩手大学、県立大学）のお兄さんたちの指導の下 PIUS の組立に挑戦しました。組立に参加したのは 25 名の未就学児童でしたが、大勢の子どもたち、保護者の皆さんが次世代電気自動車 PIUS の組立体験を見守りました。



開会式・つなぎの作業着を着て意欲満々のちびっこエンジニアたち（ちょっぴり緊張も）



赤・青・黄つなぎの作業着で勢ぞろいしたちびっこエンジニア、真剣に大学生の説明を聴く



難しい組立作業もなんのその！仕事を次々こなすちびっこエンジニアたち

<おもちゃの病院が開院>



この日は子どもたちが壊れたおもちゃを持ち寄り、修理していただく<おもちゃの病院>も開院しました。一関市などからおもちゃドクター6人が往診し、壊れた



おもちゃドクターに大切なおもちゃの修理を依頼

おもちゃの診察・治療を行いました。物を大切にする風潮が失われつつある中で、子どもたちにとってお気に入りのおもちゃは大切な宝物、大事なおもちゃを治すおもちゃドクターはとてもたのしい存在です。治ったおもちゃを持ち帰る子どもたちから笑顔がこぼれました。

昨年につき環境ポスター展を開催

第2回アース王子まつりでは昨年に引き続き県内各地で環境保全活動を行う団体などの活動を紹介する環境ポスター展が開かれました。11団体が様々な分野での環境保全活動を紹介しました。



岩手・木質バイオマス研究会
(森からの恵みでめぐみを！)



盛岡市役所
(県都の環境を守る様々な活動)



釜石地方森林組合
(森林による地域貢献)



バイオディーゼル燃料
(天ぷら油が資源になる！)



国際芸術技術協力機構 (ArTech)
(キッズ ISO プロジェクト)



アイーナ夜学
(地球1個分の暮らしをデザインする)



一関市民パワー発電事業化検討地域協議会



INS・CSR/環境人材育成研究会



岩手デザイナー協会



三田農林株式会社



Dotプロジェクト

市民公開講座

サステナビリティセミナー

通常総会に先立ち市民公開講座・サステナビリティセミナーがアイーナスタジオで開催されました。講師はスイス近自然学研究所代表の山脇正俊氏です。演題は「次代を担う子どもたちが豊かに生きるために（心地よい豊かさとは何か？）自然・環境・三陸復興・共生地域づくりに向けて」です。

川、道路、公園、街並み、建築物などを自然と融合させた形で、心地よい空間、人が集う空間（居場所）作りを目指す山脇氏の近自然学工法は、私たちに環境を考える上で新たな視点を与えてくれます。

地球温暖化問題の現状や化石燃料の今後の資源見通しについても山脇氏の調査研究結果が披露されました。

一般市民を対象の公開講座としたため会員のみならず会社員、学生も来場し会場は賑わいました。若い人たちが山脇氏の講演を聴き、これからの街作り、環境問題解決の糸口にしてもらえれば幸いです。これまで山脇氏は県内で何回か講演されています。来場者からは「毎回新たな視点で様々な環境問題を取り上げ、解説される山脇氏の講演は、多くの示唆に富み、感慨深いものがある」との賞賛の声が寄せられました。



多様な観点から環境問題を論じた山脇氏の講演

第13回通常総会

セミナー終了後第13回通常総会が開催されました。野澤日出夫代表理事は「10周年を契機に、新たな環境理念と活動理念を確認して展開を図る。加速度的に進む人口減社会を『心地よく豊かに生き延びるために』を法人理念のキャッチワードとして、限られたスタッフと県内外の多くのパートナーとの連携の中で展開を図りたい」と挨拶しました。また、岩手県環境生活部長津軽石昭彦様からご祝辞をいただきました。総会議事は議長に細田孝高氏を選出し、第1号議案 平成27年度事業報告、第2号議案 平成27年度活動決算報告ならびに監査報告、第3号議案 平成28年度事業計画、第4号議案 平成28年度活動予算、第5号議案 役員改選が審議され原案どおり承認されました。役員改選では泉山博直監事が任期満了で退任されました。長い間当法人の経理面に貴重なご提言をいただきましたことに深謝いたします。新たな監事に滝沢市産業振興アドバイザーの伊藤憲三氏、理事に坂下洋子氏が選任されました。再任の理事は野澤日出夫氏、櫻井則彰氏、佐々木明宏氏、渋谷晃太郎氏、小赤澤直子氏、佐藤清忠氏、向井田岳氏、佐藤澄子氏、千葉一男氏の9名、監事に高橋求氏が選任されました。総会終了後に開かれた定款第14条

にもとづく理事の互選により、代表理事に野澤日出夫氏、副代表理事に櫻井則彰氏、佐々木明宏氏の2名が選出され、今後2年間の任期を務めることになりました。



アイーナスタジオ・

総会会場出入り口付近を飾ったエコアートの展示
（エコアートは毎週火・金の午前にセンターで開催）

くまもと地震・義援金集まる

アース王子まつり・第13回通常総会では熊本地震支援金の募金を参加者の皆さまにお願いしました。くまモン募金箱を受付に設置したところ、2,592円が集まりました。義援金は郵便局の指定口座[日赤平成28年度熊本地震災害義援金 00130-4-265072]に



6月27日振り込みました。募金にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

平成28年度第1回岩手県地球温暖化防止活動推進員・環境アドバイザー研修会で会員の坂下洋子氏が講演

6月21日岩手県地球温暖化防止活動推進員・環境アドバイザーの合同研修会が開催されました。平成28年3月に改訂された「岩手県環境基本計画」、「岩手県地球温暖化対策実行計画」を岩手県環境生活部の黒田農企画課長、小笠原誠温暖化・エネルギー対策課長が解説し、環境パートナーシップいわて理事の坂下洋子氏が「たくさんの国の人が住む都市（まち）だから・・・環境先進国ドイツフランクフルトでの暮らしから感じたこと」と題する講演を行いました。坂下氏は2年1カ月のドイツ滞在を終え3月に帰国したばかり、フランクフルトでのホットな体験と、長い間携わってきたご自身の環境問題に対する想いを織り交ぜた講演となりました。講演は市民公開講座としたため多くの一般市民が聴講しました。

＜ 坂下洋子氏 講演要旨 ＞

大学と会社勤務で故郷を離れて7年半、岩手に戻ってきたとき（バブルの時代）、故郷の「水と空気と土」は都会と差別化できる大きな財産だと思った。その時出会った



環境基本計画を解説する黒田農課長



温暖化対策実行計画を解説する小笠原誠課長

のが、奇しくも本日会場に来ている黒田課長。黒田さんは私の環境活動のきっかけとなった方のひとり。以来「水と空気と土の大切さ」は、私の環境を見つめる原点となった。

ドイツ全土で移民の占める割合は約20%、私の暮らしたフランクフルトは約40%。確かに行った当初に比べると公共交通機関で交わされる会話は、たくさんの言語が行き交うようになっていた。

ドイツのように、様々な国の人が住んでいると、環境をはじめ様々な取り組みを理解、実践してもらうためには正論だけでは通じない。それぞれの国の文化、体験、価値観がある。それぞれの思いを認め合うことがベース。たくさんの国の人たちに情報を伝えるドイツのあり方は、多様な価値観を持つ日本でも共通する。これからの活動をすすめる上でのヒントをプレゼントしてくれた。今回のテーマのひとつと考えている「十人十色の価値観を持つ人たちにどうやって伝えるか」。一人一人がやる気にならないと始まらない。知識だけを受け取っ



ドイツの環境事情を説明する坂下氏

でも広がって行かない。環境の話をしてても関心のある人には広がるが、関心のない人たちにいかに広げるかが大切。たくさんの国籍を持つ移民が暮らすドイツで学ぶことがたくさんあった。そのようなものを今日はお伝えしたい。

そのひとつ。たくさんの価値観を持つ人たちに伝えるには、モチベーションにいかに関係するか。つまりいかにその気にさせるか。その思いになれることがキーポイント。そのためには「わかり易く」が原点。難しいことを並べてもうまく伝わらない。シンプルに誰にでも分かり易いように伝える。取り組みやすいようにシステム化する。ある意味合理的にという考え方なのだが、単なる合理化ではなく人間味ある合理化。つまり機械化して合理化する前に、人間力での合理化が中心、機械を使用するの合理化は危険や精密性が要求される場所。

2 つ目は目指す方向が明確であること。ぶれないこと。いろんな情報が入ってくる現代。絶えず戻るものがあるということ。後にも述べるがドイツは 2022 年までに原発を全廃するという方向に向かって、産官学民が一体となって動いている姿を感じた。たとえば私の環境活動の原点は「水・土・空気を大切にする」。たくさんの情報に翻弄された時、いつもここに戻って考える。

ここからは、今まで話してきたこの具体的なドイツの取り組みを、2 年間の暮らし

の中で気付いたことを中心に話したい。まずは「ものを大切にする」という視点から。

●街中の本ボックス

写真のようなものもあるし、以前公衆電話として利用されていた場所を利用しているところもある。必要のなくなった本をこ



こに自由に置いていく。そして読みたい人が自由に持って行くという仕組み。

●ポケットティッシュ 一枚一枚が日本のものに比べて厚みがある。厚いので鼻をかんでもすぐに破けない。

鼻水が手につきにくい。ドイツ人は鼻をかんだティッシュをすぐに捨てずにポケットにしまい込み再び使うのが当たり前。



●車 日本で走行距離 27 万キロ乗って、すごいと自負していたが、ドイツでは 30 万～40 万キロ乗るのは当たり前。主人がタクシーに乗ったとき 90 万キロの走行距離に驚いたところ、これくらいはよくある話。100 万キロを超えているタクシーもあると言われた。ものを長く大切に使うというドイツの文化もあるが、ドイツは日本と違い、車が故障しても部品が何十年も廃盤にならず調達しやすいという、ベースになるシステムにも素敵な文化がある。

●ヴァイナハツマルクト（クリスマスマーケット） ドイツでは各地で毎年クリスマスマーケットが開催される。日本ではイベントの装飾品を一回毎に刷新するところが多いが、ドイツでは毎年大事に取っておいて繰り返し使うところが多い。



中にはこんなに光を使ってもったいない。と思う人もいるかもしれない

が、ドイツに暮らしてみて、冬の長い夜をのりきるにはとても大切なイベントであると感じた。生きるモチベーションを高めるのに必要なのだと思う。現に11月と2月は自殺者が増えるのだそうだ。かといってこの時期だけが明るいのであって、普段の都心部を日本のそれと比べると暗い。ドイツは、一年中明るい日本とは比較にならない(目の構造の違いもあるが)。光あるところに人が集まる。バーチャルなネット環境の中で人が集うのではなく、実際にそこをめぐって人が集まる。キャンドルナイトと同じで、暗闇の中に光があるとそこに人は集まる。人がつながることによってひとつのモチベーションになる。



暗闇の中の光、暗さを楽しむことも上手。キャンドル文化も進んでいて、ドイツらしくミツロウ等、自然のものを使ったろうそくが比較的安価で手に入る。この時期になるとキャンドルを楽しむグッズもたくさん店頭に出る。

もうひとつ紹介するのは Nacht der Müssen(ナイトミュージアム)。年に一度フランクフルト中の博物館、動物園、美術館等の施設を全部開放し19時から夜中の2時まで、老若男女、子どもも家族と一緒に楽しみ、共通チケットで全ての施設に自由に出入りできる日がある。普段は味わうことのできないイベント、美術館の前に屋台が出て、ビールやワイン、ソーセージなどが楽しめる。40,000人が繰り出すと言うから経済効果も大きい。真夜中のイベントなので、普段見ることのできない光景、例えば動物園のライオン百獣の王がすやすやと寝ている光景も見ることができる。個々に楽しむと言うより、そこに集まっている人たちが、楽しみや笑いを共有することで、人の

つながりを楽しんでいる雰囲気がある。

ドイツは宗教上のこともあり日曜日は休日。休日の使い方は家族と過ごすのが基本。休むときと働くときのメリハリがしっかりしていて、日本と比較すると勤務時間が短いのに仕事効率が良いというのも興味深い。余暇を楽しみ、それをモチベーションにして働く。生きる本質を大切にする姿を様々な場面で感じた。

●生きる力を育てる 子ども達が遊ぶ遊具



の下に、落ちてても良いようにチップを敷いている。

日本は落ちないように、滑らないようにと未然に防ぐ方法をとるが、ドイツは落ちてても良いようにという考え。落ちたこと

で危険を感じる。自分の肌で感じ、体験して危険を感じ取る。生きる力の本質を大事にしている表れ。リスクを通じてリスクを学び取るという視点。

●リサイクル ドイツはデポジット制を採用。ビンや缶、ペットボトル分の金額をあらかじめ商品にのせて返却したときにお金が戻るというしくみ。ペットボトルで25セント(30円位)。返却する機械がありバーコードが反応しその分のレシートが戻ってくる。レジで買い物券として利用する。(現金化も可能)



●ビンの回収 デポジット制以外の瓶は、道ばたに回収BOXがある。瓶の色分けして自分で投入する。(白

(透明)、茶色、緑)

●古着・靴 回収BOXが道ばたにある。着なくなった衣類や、履かなくなった靴(一足ずつ袋に入れる)を気軽に簡単に利用できるシステム。

●ゴミ (画像により団地使用ゴミ箱と個人宅使用のゴミ箱の紹介) ゴミ箱の蓋の色



で分別、黄色はプラスチック (リサイクルマークがついている)、茶色は BIO(生ゴミ・草木・髪の毛など)、緑色

は古紙。その他のゴミは黒色。ゴミ収集の頻度は日本と同じくらいだが、ゴミ入れが



BOX 型なので、いつでも投げ入れ OK。つまり日本のように収集する日まで自分の家で保管しなくても良い。ゴミ回

収も収集マンが力を要さず回収できる仕組み。(動画で示す…蓋をしている大きなゴミ箱を車付属の台に乗せると、自動的に持ち上げられ、ゴミ箱が傾き、蓋がポンと空いてゴミが収集車に入る仕組み。) 日本のようにゴミ袋をひとつひとつ収集車に積み込む



労力が省ける。生ゴミ系においても最小限。

●暖房システム 燃えるゴミ等を燃やした廃熱を利用したお湯を

各家庭に供給している。気温は一年を通して岩手に似ていると思う (日本に比べ空気はドライで風が少なめ)。異なるのは家の中の快適温度。パネルヒーターの中を廃熱利用のお湯で室内が温められているので柔らかいあたたかさ。心地よいあたたかさは幸せの源のひとつだと思う。ダイヤルでも調整できる。もちろん台所やトイレにもある。

●ラインハウス 家の作り。隣同士がくっついている作りが至るところで見られる。熱効率が良い。上記の暖房システムを利用するにもロスが少ないのはもちろんのこと、家から自然に外に逃げるエネルギーも少な

くなる。エネルギー効率が良い。

次はエネルギー政策の面からお伝えする。太陽光発電・風力発電



をあちこちで見かけた。ドイツは日本と面積がほとんど同じなのだが平地が多いのでこれらの発電が向いているのだと思う。それぞれの土地特性などに見合った発電をすすめることが大切だと思う。

現状では原発もある。ただドイツはチェルノブイリの事故を 1986 年に経験してエネルギー政策の進路を大きく変えた。2022 年原発全廃を目指して、産官学民が同じ方向目指して取り組みを進めている。ここに来るまで確かに一度だけ、2022 年までの全廃は無理があると、メルケル首相は全廃を先延ばしにしようと打ち出したことがあったらしい。しかし奇しくもこのとき福島は 3.11 が起こった。この事故を受けて一度チェルノブイリを経験しているドイツはあらためて原発のリスクを感じ (技術先進国の日本でさえ原発事故が起こる) 日本以上の原発に対する反対運動がドイツ全土に広がった。この背景を受け、メルケル首相は施策を再度見直し 2022 年原発廃止に向け着実に歩みを進めている。



当時 17 あった原子力発電がすでに 8 つ廃止され、今稼働している 9 つは順次廃止される取り

組みが進められている。ドイツ全体で取り組む姿勢は至る所で見受けられた。

しかし原発の廃止は着実に進むドイツでさえも、原発で生じる核のゴミの処分場の問題は現在も続いている。

3.11 はドイツでも、今でも記憶に残って

いる。しかも津波以上に原発の事故として。自分が日本人であるとわかるという人から「洋子、原発は大丈夫？」と聞かれた。現実 3.11 の時ドイツ政府は日本で働いているドイツ人をいち早く帰国させ、ドイツのルフトハンザ航空の就航を取りやめた。チェルノブイリを経験しているからこそ福島への思いは強い。チェルノブイリ等で現在も身体に影響のある子ども達を受け入れる等 NPO ベースでの継続支援は続いている。

●自転車 至る所で自転車を利用しやすい環境を目にする。街中を走る自転車や地下鉄などにそのまま（折りたたむことなく）自転車を無料で持ち込むことができる。乳母車も、車いすも然り。折りたたみいす部分もあり・折りたたんでいる状態だと、そ



こに自転車等を乗せやすいしくみ。歩行器を持っている人が寄りかけられるクッション等も備えられている。鉄道では自転車車両があり、そのまま積み込める。

これはアウトバーン（走行時速無制限高速道路）。高速で走る車も自転車を積んでいる姿を頻繁に見かける。自転車を積んで移動し、郊外や旅先で家族単位、友達同士などの自転車利用の姿を見受けられる。



街中の自転車道路が至るところで整備されていて、歩行者でなく自転車優先。慣れないうちは、そこを知らずに歩いていて、後ろからきた自転車に、ベルを何度も鳴らされた経験もある。

●改札なし エネルギーやランニングコストがかかる改札がない。日本は改札システム（機械）が発展しキセル乗車を見逃さないシステム。ドイツは改札がないので、不定期にコントローラーという切符をチェッ

クする人が突然乗り込んできて、ひとりひ

とりチェックする。切符を持っていないと 60 ユーロの罰金。氏名、住所等チェックされ、それが 2 回目になると罰金が 100 ユーロ（現在はもっと高いかも）、3 回目は法的処分。自己責任が問われる。厳しいようだが切符を購入していれば問題のないので合理的なシステムだと思う。機械のランニングコストと消費エネルギーを考えると、たまに来るチェックする人の人件費の方が、採算性上、分があると思う。さらには人と人とが相對することでコミュニケーションの場が生まれる。機械任せではない人間同士のしくみ。たまには危険を冒してキセルをする人がいるかもしれないが、キセルのリスクを考えても素敵なくみだと思う。人間同士のしくみと言え、スーパーマーケットでも対面式は多い。対面式は単にパッケージの削減になるだけでなく、人と人とでやりとりをして買い求めることは生きる上でのモチベーションにつながる。現に楽しげにやりとりをする市民の姿は頻繁に目にする。会話の最後には「良い週末を！」とか「素敵な一日を！」「あなたもね！」という言葉が交わされる。

●まとめ ドイツでの暮らし、言い足りないことがたくさんあるが、多くの場面で生きる本質を大切にしている場面をたくさん感じてきた。日本では「そんなに複雑に考えなくても！」という場面をよく目にする。結構いろんなものをそぎ落としてシンプルに考えると本質が見えてくる。素のままで生きる。化粧の一人あたり消費量、ドイツの 1 年分が日本の一ヶ月分といわれる。普段は装飾品を身につけている人が少ない。服装もシンプルで機能性重視。サウナも男女一緒に当たり前（アダムとイヴが禁断の果実を食べる前状態？）。人間同士の裸は当たり前。（残念ながらサウナ混浴に限っては、私は無理）

生きる本質とは何？ここで踏みとどまっ

て考えて見る。生きる本質は目に見えない。岩手に暮らしているとまだ良いが、大都会のような場所で毎日忙しく、時間の隙間なく働いたり、動いていたりすると見落とされがちなものだと思う。生きる本質とは生きる為に大切なもの。幸福感。身体からこみ上げる喜び。水・土・空気・自然。…ドイツはそのようなものをベースにして生きている国のように感じた。

振り出しに戻るが、自分たちの役割として知識、情報の補充だけでなく、体験も大切というのはもちろんのこと、その情報、体験がいかに受け手のモチベーションにつながり、やる気を起こさせるかということだと思う。そのヒントは目に見えない幸福感だったり、喜び、生きる力だったり、と理屈ではない。モチベーションがないと次にすすまない。これからそのようなところを見つめていかななくてはならないと思う。

ドイツに行く前、時間に隙間があると、そこに予定を入れることをよしとしていた。結果的に時間と心に余裕がなくなって、心身ともに疲労し大切な情報も見落としがちになる。ゆっくりと流れるドイツ時間に自分の生きる本質を見つめる時間をたくさん頂いたと思っている。

最後に震災の話。震災後数日経ってから、



何か、わが家のものが落ちていないかと、がれきの中を主人と探索した。家が建っていた場所から少し離れた場所に「ちっきゅん」と呼んでいた私のビーチボールの地球儀が落

ちていた。しかも、パンクもせずにきれいな状態で。震災の次の日、講演があるため、たまたま膨らませてあった。全てを失ってしまった気持ちの中、自分の存在価値や生きることへの喪失感の状態にあったときに「ちっきゅん」を見つけた。何か後ろから「坂下洋子もっと頑張れ！環境を見つめろ！」と言われたような気がした。突き詰めると、私は学術的には環境の分野で極めた知識を持っているわけでもない。振り返れば震災後、宮古で相談員の仕事に携わる中で、関わりのあった親、教師、子ども達が笑顔を取り戻す場面に出会ってきた。ドイツに行き、これが原点なんだった。相手の人が笑顔になって、生きることへのやる気、モチベーションを持つための手伝いをするのが自分の役割。それぞれの専門分野のエキスパートでなくても自分にできることはあるという思いにさせられた。

結局自分たちが環境活動を進めていく上で大切なのは、多くの人たちに伝えていくことが使命なのだと思う。そのためには、つながらないと生きていけない。環境分野は広い。たとえある分野でエキスパートであったとしても、全ての分野ではエキスパートになるのは難しい。情報があふれる現代、一人で何とかなる世の中ではなく、ここに集まっている各分野のエキスパートの皆がつながらないと、大きな力には太刀打ちできない。容易にたたかれたり、潰される世の中である。自分たち一人一人がつながって、同じ方向をむいて「水と空気と土」を守ることに取り組む姿勢は大切、意味あることだと思う。

ゆっくりと考えることのできる2年間という時間を与えられ、こうして話をする機会に巡り会ったことに感謝し、そして最後まで私の話に耳を傾けて下さった皆さんに心から感謝して終わりたい。ご清聴ありがとうございました。

会員事業所訪問

オークフィールド八幡平

八幡平市松尾寄木でサービス付高齢者向け住宅を運営する株式会社アーベイン・ケア・クリエイティブ。最新施設の「オークフィールド八幡平」を訪問しました。会員の山下直基氏がフィールドマネジャーを務めます。



オークフィールド八幡平は南面に雄大な岩手山、北面には安比高原スキー場の前森山を望む素晴らしい景観の中にあります。岩手山麓に広がる八幡平温泉郷や八幡平リーゾートスキー場も目と鼻の先であり、レジャーやくつろぎ、散策には最適です。訪問した6月24日は快晴で、緑に覆われた周辺の山々がくっきりと見え、郭公の澄んだ鳴き声が私たちを迎えてくれました。



オークフィールド八幡平は産学官が連携して創る CCRC (Continuing Care Retirement Community) を目指しています。CCRC とは、

継続的なケア付き引退後コミュニティを意味し、高齢者が自立して生活できるうちに特定の施設に入居し、介護が必要になっても医療を受けながら生活する米国発祥の暮らし方です。

昨年12月竣工した建物は壁面が黒を基調とした瀟洒なたたずまい。周辺の緑と融合した素敵な空間の中にありました。アクティブなシニアが集まり暮らすサービス付高齢者向け住宅の第1期計画は32戸。スタッフが常駐し入居される方々の自立と健康をサポートし、活力ある楽しい暮らしを提供します。3000坪の敷地には入居者が作る農園もあり綺麗な花が咲いていました。今後は野菜の生産も視野に入れていきます。



山下氏はアクティブなシニアに来てもらい地域経済を活性化したい。外から人が来ることによる新たな文化の創造、集会、学習会などの開催による学生や地元農業団体と入居者の交流、パートナーとなる団体、企業との連携による芸術、文化の興隆も構想します。入居者は首都圏だけでなく盛岡市、北上市、八幡平市など地元からもあり、将来構想としては第2期、第3期の建設、カスタムハウス構想、温泉を施設内に引く、ドックラン構想など多彩な事業の展開を目指しています。

＜お問い合わせ＞

八幡平市松尾寄木 11-19-5

オークフィールド八幡平

0195-71-1750 <http://urbane8.jp>

野田自然エネルギー学校開催される

7月1～2日第9回野田村自然エネルギー学校が開催されました。鉛蓄電池再生ワークショップ、グリッド・タイ・インバーター



によりソーラーにより発電した電気を屋内で利用できる「補完型ソーラーオフグリッドシステム」、熊本被災地 PV 調査報告、野田学講座-三閉伊一揆、星空観察

「銀河より野田村を望む」、「屋根貸し市民共同発電所」と盛り沢山のプログラムを行いました。三閉伊一揆由来の野田の仙台柿が市民ファンドの配当として送られており、改めてその意義を確認したことで、コミュニティづくりに役立つことが分かりました。新潟、静岡、千葉、東京など遠方からも含め2日間で延べ38名の参加者がありました。



次回第10回は9月10～11日開催予定です。

ご寄付のお願い

平成27年度に会員ならびに一般の皆様から寄せられたご寄付は総額791,163円でした。平成26年5月19日に当法人は県より仮認定NPO法人の認可を受けました。さらに認定法人になるためには3,000円以上の寄付者100名を2年度にわたり集める必要がありました。26年度3,000円以上の寄付者は89名、27年度同寄付者は116名で合計205名となり、認定NPO法人取得要件であるパブリックサポートテストの絶対値基準を満たすことができました。厚くお礼申し上げます。近く当法人は認定NPO法人の申請を行います。認定NPO法人取得後は永続的に毎年3,000円以上のご寄付100名以上が必要です。ご支援をいただく皆様のご期待に沿えるよう活動を続けてまいります。今後とも当法人の活動ならびにご寄付に一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

代表理事 野澤日出夫

<ご寄付の口座>

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ○岩手銀行 盛岡駅前支店 普通 2066022 名義 | 特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて |
| | 代表理事 野澤日出夫 |
| ○ゆうちょ銀行 八三八 普通 1915127 名義 | 特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて |
| ○郵便振替 02260-0-38661 | 特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて |
| | *郵便振替は赤色の振替用紙を使うと手数料が不要です |

編集後記 第26号はアース王子まつり、総会、会員の坂下洋子さんの講演要旨と多目になりました。

総会、アース王子まつりが終わるともう夏本番です。今年の夏の暑さはどうなるのでしょうか？気にかかります。大気中のCO₂濃度が400ppmを超え異常気象が頻発するようになりました。緩和策、適応策をしっかり考え、やらなければならない状況を迎えています。温暖化防止や生物多様性の保全はもはや待ったなしです。会員の皆さんならびに多くの団体の皆さんと連携、協働し活動を行う環境パートナーシップいわての真価が問われます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

総会で今年度の年会費を納められた以外の方には会費請求書を同封しています。会費の納入につきまして宜しく願い申し上げます。

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 5F TEL:019-681-1904 Email: kanpai@utopia.ocn.ne.jp

ニューズレター26号 2016年7月11日発行

編集：特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて マネジメント・ガバナンス委員会